

2023-評価会 02
令和 5 年 11 月 21 日
蒸気噴出に関する環境影響評価委員会

三井石油開発（株） 殿

蒸気噴出に関する環境影響評価委員会
委員長 佐藤 努

冬期の「飲用井戸水」に関する水質モニタリング頻度の検討（答申）

2023 年 11 月 9 日付けで諮問があった「冬期の「飲用井戸水」に関する水質モニタリング頻度の検討」について、これを適当と認める。ただし、下記を条件とする。

- ・ 融雪期や大雨時にはやや注意が必要となるため、季節変動も考慮して再び分析頻度を増やすこと
（例：1 回/週）
- ・ 融雪期の分析結果をふまえ、その後の分析頻度を対策の状況も考慮して改めて計画すること
- ・ 少なくとも今後 1 年程度は、上記の対応を継続すること
- ・ 本諮問と答申への過程も公表対象にすること

以 上

参考：各委員の意見

委員	意見
佐藤 委員長	<p>諮問されている 1 回/月には賛成。評価委員会は透明性が重要であることは、10 月 25 日の評価委員会でも確認しており、今回の諮問の過程もオープンにすること。</p>
五十嵐 委員	<p>測定頻度を下げることは了解。その理由として、定常的な砒素の発生量がゼロとなり、環境中に放出された砒素の移動をモニタリングするという段階なので、測定頻度を 1 回/月とすることはよいと思うし、今後その結果を踏まえ、4 回/年、さらには 1 回/年と、徐々に下げることも含みに加えた方がよいと思う。例えば対策中は 1 回/月、対策後は 4 回/年と計画していくのがよいと思う。</p>
石塚 委員	<p>1 回/月への変更、さらに追加の意見について異論はない。メール審議の場合も公開するということで承知した。</p>
竹田 委員	<p>1 回/月への変更については、異論はない。ただし、融雪期などの季節変動には柔軟に対応する体制を構築すること。</p>
吉田 委員	<p>地下水の専門ではないが、安定しているようなので、月 1 度で十分と思う。天然ヒ素汚染地域では、バングラデシュなど季節変動あるように聞いているので、春先などで変動あれば、間隔短縮しても良いかもしれない。</p>
脇田 委員	<p>根拠がしっかりしており、1 ヶ月に 1 回の分析に変更しても構わないと思う。しかし、雪が融け始める頃は、やや注意が必要かと思われ、その時には再び分析の頻度を増した方がよいと考える（1 週間毎など）。その後は分析結果をふまえて分析頻度を少なくすることが考えられる。少なくともここ 1 年くらいは、雪解けや大雨等、何か大きなイベントが起こった際には分析頻度を高める必要があるかと思う。</p>
渡部 委員	<p>融雪期に測定頻度を増やす事に賛成する。通常期はこれまでのデータから考えて月 1 回で問題ないと思う。</p>